

眼科 専門研修プログラム



良質な医療を提供できる眼科医を育成

受入人数： 8名

選考方法： 書類選考、面接等

国内トップクラスの手術件数・実績と、長年に渡り培われてきた技術と知識を活かしながら、専攻医として入局した若手医師が世界で活躍できる指導を行います。

■ プログラムの“ここがポイント”

1. 140年の歴史ある教室
2. 全ての分野に専門家を有する偏りのない研修
3. 多様な研修施設を有し、千葉県地域枠に対応した病院も研修先として確保
4. 豊富な症例数で即戦力となる専門医を育成
5. 初年度より学会発表、論文作成、リサーチマインドの醸成

専攻医のみなさんを大事にします。私たちと一緒に眼科医としての最初の1歩を踏み出してみませんか？



■ プログラムの内容

当医局は網膜硝子体、緑内障を中心に、白内障、角結膜、ぶどう膜、神経眼科・眼瞼・眼窩などの幅広い専門家が在籍。千葉県全域から重症疾患、急性期疾患の患者が集まるため症例が多彩かつ豊富であり、様々な眼疾患を経験することができます。当科では専攻医1年目から初診外来を担当し主治医として治療を計画、実行するため実践力も身につく、研修終了時には基本的眼科疾患に関しては診断、治療に関して自ら戦略を立て、遂行する事ができるようになります。

また当教室は千葉県内に多くの関連施設を有し、各施設へ継続して医師を派遣しております。施設ごとに経験豊富な指導医が在籍しており、眼科common diseaseについてより多く研鑽がつめると同時に、千葉県地域枠に対応した施設も研修先として確保しているため無理なく充実した地域研修も行えます。

臨床のみならず、初年度より積極的に国内、国際学会発表、また英語論文作成を行うことによりリサーチマインドを育成します。基礎研究の分野では当大学内に留まらず他施設と協力して多くの研究を行っており、希望者は国内外の施設へ留学することができます(神戸理化学研究所等)。特に難治疾患である網膜色素変性の病因解明と治療法開発に力を入れています。

■ プログラム責任者 馬場隆之(教授)

■ 研修プログラムに関するお問合せ先

〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院 眼科

電話：043-226-2124

URL: <http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/gannka>

千葉大学病院 総合医療教育研修センターHP
<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/chibauniv-resident/>

千葉大学病院 見学のお申込み
akiba@chiba-u.jp

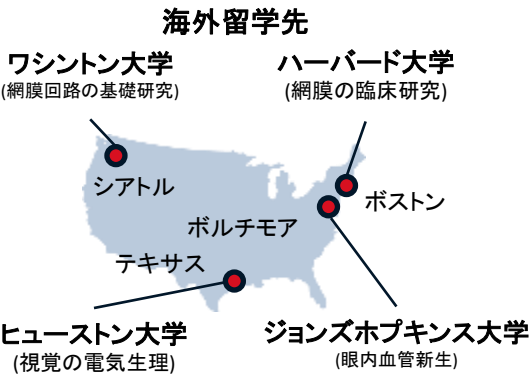
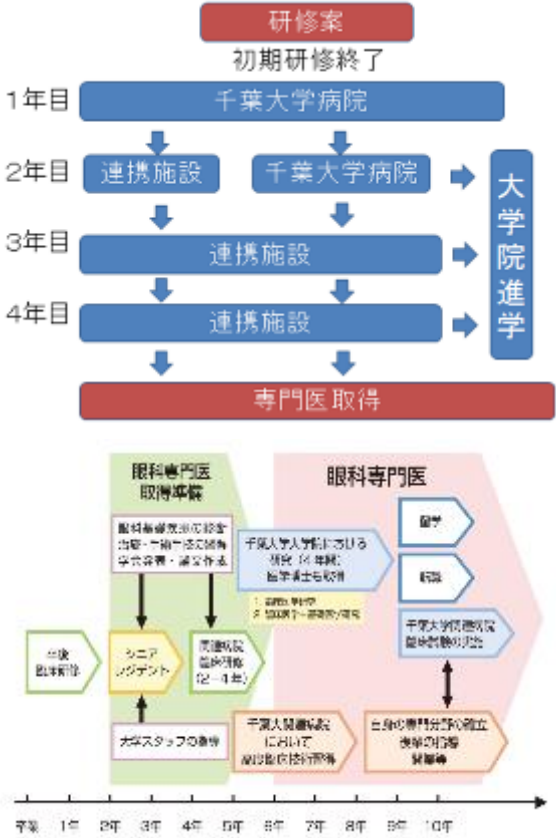
お気軽にお問い合わせください♪

4年間の研修期間中、最初の1年間は専門研修基幹施設である千葉大学病院で研修します。
まず診察技術、手術手技の基本を習得し、研究発表(年2回)、国内外での学術集会での発表(年1回以上)と論文執筆(1編以上、日本語、英語原著共に可)を行うことによって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。

2年目以降は、千葉大学医学部附属病院もしくは
専門医制度連携施設の病院いずれかで研修を行います。

千葉大学医学部附属病院を選択した場合、専門領域(網膜硝子体、緑内障、角結膜、ぶどう膜等)に特化した研修が可能になり、各疾患についてより深い知識を得ることができます。専門医制度連携施設を選択した場合、様々な特色をもった病院があり、一般臨床知識と病院によっては未熟児の特殊診察の習得、また多数の症例を執刀することで手術手技の確立を図ることができます。また大学院に進学し、研修を行いながら臨床研究や基礎研究を行うことも可能です。どのコースを選んでも最終的に自身で設定した到達目標に向けて進むことができるようにローテーションを適宜調整していきます。大学院の期間、physician scientistとして基礎、臨床の両面に関わることで、幅広い視野を身につけることができ、また基礎と臨床の橋渡し研究であるトランスレーショナルリサーチを推進できます。

研究領域は、視神経の再生、糖尿病網膜症の分子生物学的メカニズム、光干渉断層計(OCT)による画像診断などのバイオメカニクス研究、そして幹細胞を用いた網膜再生医療まで非常に多彩です。大学院卒業後は、連携施設でサブスペシャリティ領域の研鑽を続けることとなりますが、希望があれば国内の施設(神戸理化学研究所など)や国外の施設(ジョンズホプキンス大学など)へ留学し、さらに基礎、臨床研究を行っています。



温和で面倒見のよい指導医の下、
仲間と臨床・研究を通じて
切磋琢磨できる医局です